

DMG MORI SAILING TEAM VGまであと111日!

— Vendée Globeへの道 —

皆さま、こんにちは！

「DMG MORI SAILING TEAM」と白石康次郎選手の挑戦をお伝えするメルマガ『DMG MORI SAILING TEAM -Vendée Globe への道-』の第9号です。

7月4日から開催された予選レース「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」を無事完走しました。

今回は、予選レースに向けて行ったソロロングセーリングを振り返り、レースまでの準備の様子を詳しくお伝えします。



白石選手と DMG MORI Global One 号 予選レース完走！

予選レースに向けて行ったソロロングセーリングを振り返ります。

2020年7月4日より、Vendée Globeの予選レース「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」が行われ、白石選手とDMG MORI Global One号は完走し、詳しいレポートは次号でお伝えします。今回は、その予選レースに向けて行ったソロロングセーリングを振り返り、詳細レポートをお届けします。



「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」を無事に完走した白石選手。



上: サバイバルスーツは、サイズをチェック。海上でトラブルに遭遇した際、海水温が低いところでも延命するために、体温をある程度保つことが必要。

まず、セーリングの準備として、船に積み込むサバイバルスーツ、医療キット、工具箱、修理用のスペアパーツ、マストに登るための登山用具、キール用のダイビング用具などを準備します。

このソロロングセーリングを行うにあたって、船内環境の改善や整備のチェックを入念に行いました。

船上では振動と揺れが激しい時間が多く、気象状況を確認したり、セーリングコースを決めるためのPC作業で、キーボードがうまく使えなかったり、マウスカーソルがうまく合わせられないことがあります。また、日常的に使うものも、置いておくだけでは飛ばされてしまうことがあるため、振動防止の工夫をしたり、簡易ポケットをつくって収納したりといった改善を行いました。このほか、ビデオ通話や衛星電話の接続状況もチェックしました。



通信は命運を左右するので、出港前の係留中も念入りに確認する。

こうして準備を終えたDMG MORI Global One号は、6月8日にソロロングセーリングへと出港しました。

これまでのトレーニングを通じてDMG MORI Global One号の操作に慣れてきている白石選手が、今回のセーリングで試したことのひとつが速度を平均的に保つての走行です。加速性能の高い船ですが、スピードを上げすぎると壊れる可能性が高まり、逆に遅すぎると船の性能を発揮できないため、平均的な速度を保つことが好成績につながるからです。

レース本番では、順風のときはもちろん、風が弱まったときでも前に進まなければなりません。そのために、最適なセールを選んだり、風に合わせて調整したりする必要があります。これは、細かな作業と高度な技術が要求されるため、今回のトレーニングにおいて、重要な課題のひとつでした。



平均20ノット(時速約37km)以上の速度を保つようDMG MORI Global One号を操る。

船上での楽しみのひとつが食事。お米好きの白石選手にとって、フリーズドライのご飯は必需品です。お湯で戻したご飯に缶詰のイワシをのせ、しょうゆとマヨネーズで味付けしたものが、白石選手お気に入りの定番メニューだそうです。簡単にできるので皆さんも白石選手の気分を味わってみてはいかがでしょうか。



イワシの缶詰とフリーズドライのご飯を手にする白石選手。船内での食事は他に、ラーメンやパスタ、スナックなど。

セーリングの中盤以降は、雨やスコールに見舞われる場面がありました。荒れた天候のときは、船首が波とぶつかり、激しい波しぶきが船に襲い掛かります。しかし、その水はコックピットに溜まることはなく、デッキから船尾を経て海へと排水される仕組みになっています。



一時的に視界が悪くなることはあるものの、浸水を食い止める構造になっている。

実は今回のソロロングセーリングでは、DMG MORI Global One号に2つのトラブルがありました。

1つめは、舵が漁業用のブイと接触し、プロペラやキールに魚網らしきものが引っかかってしまったこと。防水カメラを使って現状を確認し、波の状態が落ち着いているときに潜水して取り除こうとしましたが、うまくいかなかったため、帰港後に対処することになりました。



潜水作業のためウエットスーツを着た白石選手。ナイフを使って網を除去しようとするも、酸素ボンベの消費が早く、作業を続行するのが危険だと判断して断念した。

2つめのトラブルは、セーリング終盤、左舷のフォイルに何かが衝突し、ダメージを受けました。

フォイル自体が折れるような大きな事故ではなかったものの、フォイルの損傷を確認する必要があったため、セールを降ろしてスピードダウンし、船を止めてから状態をチェック、ショアクルーに写真を送って相談しながら対処しました。プロペラに漁網が絡まっている状態だったので、入港はいつも以上に慎重に行われました。

ショアクルーが2台のリポートで白石選手と船をお出迎え。すぐにセーリングをチームで振り返った。



ソロロングセーリングが終わったからといって、チームはのんびりしているわけにはいきません。帰港の約半月後にスタートする「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」に向け、今回の損傷箇所を修理し、DMG MORI Global One号をベストの状態に調整する必要があります。その作業は、セーリング終了後、すぐにスタートしました。

船全体の清掃後、損傷したフォイルの修繕が行われました。左舷のフォイルを船から取り外し、超音波テストで損傷の程度をチェックします。

フォイルの修繕は、表面だけをきれいにするのではなく、フォイル内の構造まで注意深く検査したうえで、損傷箇所にカーボンシートを丁寧に重ねていきます。



船から取り外されたフォイルをヤードに運び込んで入念に検査。



カーボンシートは個別に紙やすりで磨かれ、真空状態にして貼り重ねる。



損傷箇所の修理が終わったら、最後に塗装を施す。

また、検査の結果、フォイルの下側にも小さな損傷が見つかったため、同様に修理をしました。

魚網が絡まったプロペラやキールも検査のうえで修理が行われました。修繕箇所が船底なので、リフトで吊り上げてチェックします。

予選レース「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」を完走しました！

2020年7月4日から開催されていたVendée Globeの予選レース「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」で、白石選手が無事に完走を果たしました！これで、Vendée Globe 2020の出場が内定しました。

今回の予選レースは、通常と違って、各船がホームポートから無寄港でスタートポイントに集合してのスタートでした。白石選手が操るDMG MORI Global One号も、ホームポートのロリアンからスタート地点であるレ・サブル・ドロンヌ港の沖合へと移動し、7月4日(土)フランス時間の15時30分、航海へと旅立ちました。



レ・サブル・ドロンヌ港沖合のスタートポイントから航海へ。

レース中、何度かのトラブルはありましたが、ショアクルーの24時間体制のバックアップに支えられてトラブルを乗り越え、トップ集団に離されないままレースを進め、10位の成績で完走することができました。

今回は、スタート時、ゴール時の写真とともに、まずは速報としてお伝えいたしました。レースの展開やトラブルへの対処、今後への課題など、詳しいレポートは次号でご報告しますので、どうぞ楽しみに！



「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」を無事に完走した白石選手。

白石選手からのメッセージ

皆さま、こんにちは。

レースに参加するため、スタート前日にPCR検査を行いました。対策をとりながら作業やトレーニングを続けていたこともあり、陰性で無事に出場することができました。

既にSNSやご報告メールでご存知かと思いますが、10日11時間30分29秒、10位で無事にゴールする事ができました。

爆弾低気圧のあるアイランドを回ってくるコースで、厳しいレースになりましたが、完走した事で Vendée Globeの出場基準を満たすことができ、一安心です。

本当に応援ありがとうございました。

感謝

白石 勇次郎



GOLD SPONSOR

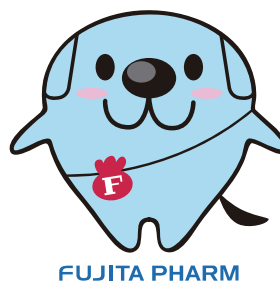


SILVER SPONSOR

GOLDWIN



BRONZE SPONSOR



OFFICIAL SPONSOR



HAIMER



医療法人社団 愛友会
上尾中央総合病院
Ageo Central General Hospital